みんなで育む こばやしの子育て

～まち・地域・企業の子育て支援～

変容する子育ての形

目まぐるしく変化していく現代社会。子どもや子育てを取り巻く環境も絶えず変化し続けています。（図2参照）

三世代同居や大家族が多く、地域社会でも子どもが多かった時代から、親と子の核家族が中心となり、共働きで子育てを行う家庭の割合が大きくなりました。

また、以前は子どもが泣いたときに、すぐ抱っこをすると「抱きぐせがつく」と言われていましたが、最近では「抱っこをすると安心して心が安定する子になる、愛情をたくさん伝えてあげましょう」と言われています。

このように、時代の変化とともに子育ての考え方や、そのあり方は変化しており、現代の子育て中のお父さんやお母さんは、時間に追われ、人に頼ることが難しい状況の中、日々奮闘しています。

こうした厳しい環境は、数字にも表れており、令和3年の小林市の出生数は264人で、これは平成23年の出生数から6割弱程度にまで落ち込んできている状況で、出生数と同様に婚姻数も年々減少傾向にあります。（図1参照）

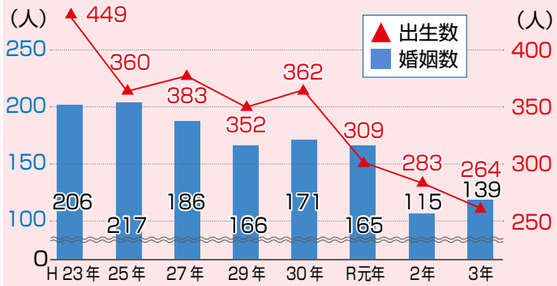
このような状況を踏まえ、市は、令和2年にみやざき子育て応援宣言の中で「子どもの健やかな成長のため、地域がてなんで（みんなで一緒に）子育てを応援する」ことを掲げました。

未来を担う子どもたちは地域の宝。家庭だけではなく地域や企業、行政が一体となってみんなで子育てに取り組むことが、地域の未来を育むことにつながります。

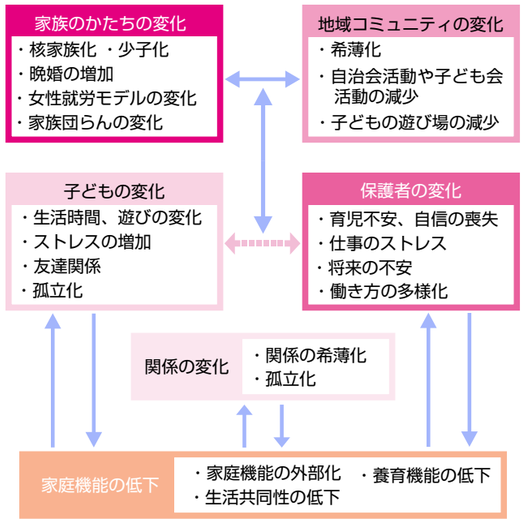
それぞれの立場からの支援

今回は、11月が県の子育て応援マンスということに合わせて、**小林市の子育て**について特集します。「まち」が、「地域」が、「企業」が出来る、それぞれの立場から現在行われている、本市ならではのあたたかい子育て支援の取り組みについて紹介します。

【図 1】小林市の出生数と婚姻数の推移



【図 2】子ども、家族を取り巻く社会の状況と家族関係



11 月は児童虐待防止月間

「もしかして？」ためらわないで！189（いちはやく）

保護者や同居人による子どもへの虐待で子どもの命が奪われる重大な事件が後を絶ちません。虐待を受けたと思われる子どもを見つけたときや、自身が子育てに悩んだときは迷わずに相談ください。

「虐待かも？」と思ったら

児童相談所全国共通ダイヤル

いち 1　はや 8　く 9

地域の児童相談所につながります。（通話料は無料です）
※一部の IP 電話からはつながりません

◆虐待の種類と内容

身体的虐待	殴る、蹴る、叩く、投げ落とす　など
性的虐待	子どもへの性的行為、性的行為を見せる、　など
ネグレクト	家に閉じ込める、食事を与えない、　など
心理的虐待	言葉による脅し、無視、　など

子育て世代転入・三世代同居等促進事業補助金

市内（野尻地区）で三世代近居による子育て中の永野さんご家族。
写真①前列㊧から永野琉愛くん（年長）、希愛ちゃん（小2）、心愛ちゃん（小4）、翔愛くん（中1）。後列㊧から永野亜紗美さん、永野至洋さん。
写真②後列㊧から2番目 渡和子さん、3番目 渡陽一さん

昔は地域にありふれていた三世代同居や近居。近年、女性の社会進出や共働き世帯の増加により、親世帯と子・孫世帯が共に支え合って暮らす三世代同居・近居に注目が集まっています。

市では、子育てや介護などで支え合えるよう、同居・近居のために住み替える子育て世帯を応援し、最大20万円の補助を始めました。今回は市内で実際に三世代近居をしている永野さんご家族に近居の実情について話を聞きました。

近居してよかった。子育て、経済面両方で助かっている

市内の野尻地区で三世代近居している永野さん一家。至洋さん、亜紗美さん夫婦は、13年前には千葉県に住んでいましたが、長男の翔愛くんを妊娠した際に「子どもを産み育てることを考えると身近に頼れる人が欲しい」と思い、亜紗美さんの実家で同居することを決心したそう。

帰省後、実際に7年間の同居とその後付近に家を建て、6年間の近居生活を経験している亜紗美さんは「近居していて良かった。親2人が仕事で遅くなる時にも見ていてくれる人がいる。家族ということもあり頼みやすさや安心感があります」と近居について話します。

孫の成長を見られる嬉しさ

永野さん一家と三世代近居をしている亜紗美さんの両親である渡陽一さん、和子さん夫婦。三世代近居の良いところは親世代だけではないと話します。「祖父・祖母世代にとっても、孫の成長をすぐ近くで見守ることができるのはとても嬉しいことです」と陽一さん。

孫がたくさんで一緒に遊ぶにも体力はいるけど嬉しい悩みですと楽しそうに話していました。

永野さん家族で最も三世代近居を楽しんでいるのは長男の翔愛くん。陽一さん宅で寝泊りし、そこから学校にも通いたがるほどです。翔愛くんは「じいちゃんとたまに行く堤防釣りが楽しい」と話し、インタビュー中も陽一さんと釣りの話で盛り上がっていました。

この日は運動会当日の午後。近居している亜紗美さんのお兄さん家族と「よく頑張りました」会をしていました。

近居の良いところを聞いていた一方で「子育て面など助かるところはたくさんあるけど、庭（亜紗美さん宅）の草を刈るようよく注意されるのは少し嫌ですね」と亜紗美さん。陽一さんは「近くにいるからこそ庭の状況など、細かいところなんかにも目がいってしまう」と話し、2人は「でもこういったやりとりができるのも近居していて良いところかもしれないですね」と笑って話していました。

親世代、祖父母世代共に子育てを楽しむことができる三世代同居・近居。これから結婚・出産・子育てなどのライフイベントを迎える際に選択肢の一つとして考えてみませんか。

市では今回の子育て世代転入・三世代同居等促進事業補助金の他にも、赤ちゃんの誕生を祝い、育児用品を贈る事業など、子育て世代を支援する事業を行っています。

各種事業詳細

子育て世代転入・三世代同居等促進事業補助金

おめでとう赤ちゃん祝品事業

親子で自由に集える場 子育て支援センター

いつでも誰でも遊びに来て

子育て支援センターは乳幼児の子どもと、子どもを持つ親が交流を深めることができる場所で、子どもの遊び場であるとともに、保護者同士の交流や育児相談、情報提供など地域の子育て支援拠点のひとつです。

「構えることなく、いつでも誰でも遊びに来てほしい」。子育て支援センター「チポリーノ館」の「まあ先生」こと中園真寿美さんはこのように話します。

チポリーノ館は予約がいらず、親子で遊びに行ける子育て支援センターです。

子育て相談や離乳食体験、国際交流体験、お花見や誕生会など、定期的に子育てイベントも開催しており、こうしたイベントや相談を通し、子育て中のママ同士のコミュニティの場となっています。

「自分の子どもとはいえ、言葉の通じない相手とだけ一日中一緒にいるというのはとても疲れるものです。子育ての悩みはもちろんですが、好きなドラマの話とか、どんな話でもいい。気兼ねなく実家のように訪れてください」と中園さん。

支援センターでは、同じくらいの月齢の赤ちゃんに会えたり、一緒の悩みを持つ保護者に会えたり、もしかしたら近くに住むパパママに出会えるかもしれません。市内に3カ所ある子育て支援センター。いつも笑顔でスタッフが出迎えますので、気軽に遊びに来てみませんか。

子育て支援センター「チポリーノ館」
保育教諭　中園真寿美さん

市内の子育て支援センター

子育て支援センター 「おひさま」

◆場所　小林市真方 89 番地 1（小林市保健センター 2 階）
◆曜日　月曜～土曜
◆時間　9 時～ 12 時、13 時～ 16 時
◆電話　23 － 0320

野尻のぴのび子育て支援センター

◆場所　小林市野尻町東麓 2166 － 2（野尻保育園内）
◆曜日　月曜～土曜
◆時間　9 時～ 12 時、13 時～ 16 時（土曜は 15 時まで）
◆電話　44-1881

子育て支援センター「チポリーノ館」

◆場所　小林市細野 735 番地 1（認定こども園こばと保育園内）
◆曜日　月曜～土曜
◆時間　9 時～ 16 時（土曜は 15 時まで）
◆電話　22 － 2102

10 月開催コスモスの花見にて

写真㊧
荒木涼さん、壱太くん（10 カ月）

友人から紹介されて子どもが6カ月のころにチポリーノ館に行き始めました。先生も子どもをいっぱい可愛がってくれるし友達も来ているから楽しいです。可愛さはもちろんあるけど、子どもと2人だけだと疲れてしまう部分もあるので、午前中支援センターに遊びに行って、午後から子育て頑張ろうという気持ちにさせてもらっています。

利用者インタビュー

写真㊨
田中朱宮さん、文椛ちゃん（1歳）

初めてチポリーノ館を訪れたのは子どもが8カ月ごろのこと。保育士が常駐しているので安心して遊びに行けます。行くと丁度同じくらいの年齢の子を育てている人が来るので、そういった人と知り合えるのも支援センターの良いところ。今回の花見もですが、季節ごとのイベントなども沢山あり、家だけでは体験できないことが多いのでとても助かっています。

みんなで育む小林の子育て

子育てはそれぞれの家庭の中だけですることと思われがち。多くの子育て中のお父さんやお母さんも自分自身が頑張らないといけないと思い常に気を張っています。

実際には子どもや子育ての環境が変化し、家庭の中だけで子育てをすることはとても困難。

地域の人、職場の人など周囲のみんなが子どもや子育てに関わり、親の負担を減らすことができれば、より一層愛情を注がれて育った子どもたちが地域に増えていきます。

今回取材で訪れた保育園や子育て支援センター、子育て中の家族、企業など、子どもや子育て支援に関わっている人たちにはたくさんの笑顔があふれていました。

子どもの元気は地域を元気にします。

地域のみんながそれぞれの立場から、できる形で子育てに関わり応援することが、小林の未来をより明るく、楽しいものにしてくれるのかもしれません。

幼児教育・保育施設～子どもたちの成長を支える空間～

子どもたちの成長のため、地域に欠かすことができない存在となっている幼児教育・保育施設。現在小林市には34カ所の保育所、認定こども園、幼稚園、認可外保育施設があります。

共働き世帯の増加に伴い、これらの施設の重要性や、求められるものは増えてきています。ここでは、市内の保育現場で働く保育教諭と、その利用者に話を聞きます。

利用者 INTERVIEW 保育教諭

初めての入園前には他のお友達とうまくいくかな？と不安に思いながら預けたことを覚えています。実際には保育園の中で色々な友達と遊ぶようになり、「家よりも保育園が好き」というぐらい楽しんで登園しています。

これからも色々なことをのびのびと学んでいって欲しいです。

橋谷亜希さん、恵佑くん（小4）、咲花ちゃん（年少）

家や職場が近いことをポイントに保育園を探しました。子どもを預かってもらえることで、集中して仕事にも行けているのでとても助かっています。これからも周囲の人とのかかわりを大切に、保育園だからこそ学べる行事など、そういったものを大切にしてほしいと思います。

種子田友希さん、莉心ちゃん（年長）、一喜くん（年中）

２人とも働き始めて２年目。お互い小さい時から子どものお世話が好きで保育教諭を目指しました。行事前の準備など忙しく大変だと思うこともありますが、運動会、発表会などで子どもたちが成長する過程を保護者のように間近で感じられるのがとても嬉しい。子どもたちが保育園を楽しむことはもちろん、保護者の方にも安心して預けてもらえるような保育教諭になりたいです。

川原萌さん

神之園怜来さん

企業

地域企業にも広がりつつある子育て支援の輪。今年だけでも食材やランドセル、下敷き、定規の寄贈などが行われ、子どもたちの成長に役立てられています。

子どもたちは地域の宝 企業の立場からできる支援を

支援の輪が広がる地域企業。サンキョーミート株式会社も支援企業のひとつです。市内の霧島ミートプラントで牛や豚のと畜からカットまでを行う同社では、地域の子育て支援や地域貢献活動に力を入れています。

「子どもたちは地域の宝。地域に支えられている企業として何か出来ることはないかと考え、私たちにできることが食材の寄付だった」と工場長の花木さん。

サンキョーミート㈱
霧島ミートプラント
工場長　花木涼一さん

同社は今年の4月に市内学校給食へ約200㌔、そして8月～12月には市内の子ども食堂へ毎月約20㌔の豚肉を寄付しています。誰でも利用できる子ども食堂への寄付をすることで、現在少なくなっている違う年代の子どもたちの交流などを食を通じて学ぶ機会になると嬉しいとの考え。

同工場で働くのは多くが市内在住者。その中でも子育て世代の社員の割合は大きいとのこと。花木さんは「自分の時もそうだったが、子育てしている時期は一番大変な時期。地域の子どもたちの支援もだが、親世代の働く環境を整えることも重要」と話します。

実際に同社では「仕事と育児の両立支援制度」を設け、社員の妊娠から職場復帰までのサポートにも力を入れています。

11月には再度市内学校給食への豚肉の寄付を予定している同社。「うちもまだまだ支援を始めて日が浅いですが、こうした支援の輪が広がり、小林での子育て環境、子育てのしやすさなど良い方向に向かっていくと嬉しい」と話していました。

8月に市内子ども食堂へ豚肉を寄贈したサンキョーミート株式会社